

行基はいかに語られてきたか (文中敬称略)

若井敏明

① 行基のもつ3つの側面

- i 政府からの弾圧 小僧行基
 - ii 社会事業活動の展開
 - iii 大仏造立への協力と聖武天皇の帰依
- この三者をどのように理解するのか？

② 戦後の行基研究の諸傾向

古典的理解 i と ii を区別せずに把握

(上略) そのような行基の活動に対しても、みだりに罪福をとき、百姓をまどわすものとして、きびしい弾圧が加えられた。(笹山晴生「奈良朝政治の推移」『岩波講座・日本歴史』1963年)

転向論と実証研究

北山茂夫 人民闘争史からみた行基 人民から朝廷の側へ

井上薫 「変わったのは政治・社会の情勢や、官の行基観である。(中略)

彼に対する政府の態度は弾圧から譲歩に、さらに起用に転じたのである」(『行基』)

思想主体の問題

二葉憲香 行基の活動は大乗仏教の利他行の実践 (反律令仏教)

中川修 宮城洋一郎

石母田正の行基敗北論

大仏造立詔にみえる天皇を中心とした「知識」という「共同性の幻想」に行基は敗北した。(『日本古代国家論』第一部)

③ 活動の具体相の追及と「神学論争」の終焉

いわゆる社会事業の規模や設置時期の明確化

井上光貞「行基年譜、とくに天平十三年記の研究」

米田雄介「行基と古代仏教政策」

豪族層と行基との関係 長山泰孝

女性や下級官人層との関係 勝浦令子

藺田香融、中井真孝の研究

その時期の学界の問題関心とのからみ

活動の展開の再検討と思想基盤、さらに初期の山林修行の再発見
吉田靖雄『行基と律令国家』1987

行基研究のひとつの到達点

井上薫編『行基事典』1997

吉田靖雄『行基』（ミネルヴァ書房 日本評伝選）2013

④ あらたな視点

考古学からみた行基の事業

狭山池、大野寺土塔、山崎院の発掘

歴史地理学的手法での事業のプラン復元

古代道路と院、布施屋、橋などの関連

行基と国家プロジェクトとの関係 若井

先日の東大寺ミュージアムでのシンポジウムのテーマ

思想（中川修） 考古学の成果（近藤康司）

古代道路、氏族との関係（馬場基）

事業家としての行基

行基の相対化 森明彦

行基論はどこへゆく